

# 乙女高原が好き！ 2003号

## コロナ禍の乙女高原

今年の初めに日本で新型コロナウイルス感染のニュースが流れてから、感染拡大の波はあるもののいまだに収束しない状態が続いています。この間、社会・経済活動に大きな影響を与え、3密（密閉・密集・密接）を避けて外出の制限やリモートワークなどが広がりました。また、日常生活でもマスクの着用や手洗いの徹底、そしてソーシャルディスタンスの確保が求められています。

当然この新型コロナウイルスによる影響は、私たち乙女高原ファンクラブの活動にも無関係ではありません。私たちの活動では遊歩道作りや草刈りなど大勢の人の力を借りる活動をイベントとして行っています。乙女高原の自然を維持するためにはやめるわけにはいきませんが、密を避けて規模の縮小などを考える必要があります。今年は例年と異なる様々な課題があるにも関わらず、会場が確保できないため世話人会も開催できない月が続きました。観察会や調査はマスクをしながら人と人の距離を保って行います。ちょっと異様な雰囲気です。そして乙女高原を愛して通われていた近隣の会員の姿も減ってしまいました。今まで通りの活動ができるようになることを願うばかりです。

新型コロナウイルスはコウモリが起原と考えられ、元々は野生の中でひっそりと生きていたものです。近年ヒトでコウモリ由来の感染症が多発する原因として、開発という名の自然破壊に伴い、コウモリと家畜や人の棲み分けが保たれなくなったことが指摘されています。人間が自然破壊を繰り返す中で人間社会に噴出し、グローバル経済に乗って瞬く間に世界中に拡散したというのが今日の状態ではないでしょうか。

コロナ禍であっても乙女高原はいつもと変わらぬ姿を見せてくれています。With コロナの生活様式を取り入れながら、今まで以上に乙女高原との関りを深めていきたいものです。このような時期にこそ是非乙女高原に足を運んでください。

## 18年目の「マルハナバチ調べ隊」

### ◆初夏編 6月28日

雨天のため中止。午後から植原さんがラインセンサス調査を実施しました。

・トラマルハナバチ…2頭    ・オオマルハナバチ…2頭    ・ミヤママルハナバチ…2頭

合計6頭。訪花していたのはすべてアヤメでした。

### ◆盛夏編 8月1日

記事：植原 彰

特に何にも告知はしていませんが、当日は10人がマルハナバチ調べ隊のために来てくださいました。スタッフで話し合い、本日の調査はコロナ感染拡大防止のため、午前中のラインセンサス調査のみにし、短時間で終了させることにしました。もちろん、説明時には人と人の距離を取り、スタッフは必ずマスクをすることにしました。

全体の司会進行は鈴木さん。それに三枝さん、芳賀さん、井上さんがサポートしてくださいました。紙芝居は、芳賀さんのお孫さんグループが一手に引き受けてくれました。この子たち、紙芝居上演はもう何回目になるでしょうか。

トイレや持ち物など少し準備の時間をとった上で、ラインセンサス調査のために草原内に入っていきました。曇りがちで気温も低く、マルハナバチがどれくらいいるか心配でしたが、その心配はすぐになくなりました。次から次へとマルハナバチが見つかるのです。しかも、気温が低いせいか、動きが鈍く、いつもだと

ハチの動きが忙しすぎるので見にくい花粉団子の様子もばっちり観察できます。「ミヤママルハナバチ、働きバチ、花粉団子は無し、蜜を吸っている、来ている花はノハラアザミ」といった具合に、調査票に記入していきました。

結果、1時間のラインセンサスで 113 頭のマルハナバチが観察できました。内容は以下の通りです。

- ・トラマルハナバチ…計 03 頭 ノハラアザミ 2 ノアザミ 1
- ・オオマルハナバチ…計 77 頭 ノハラアザミ 36 クガイソウ 20  
タチフウロ 16 キリンソウ 4 ヒメトラノオ 1
- ・ミヤママルハナバチ…計 33 頭。 ノハラアザミ 26 タチフウロ 6 クガイソウ 1



ノハラアザミとオオマルハナバチ

113 頭というのは 17 年間のマルハナバチ調べ隊の中でも 3 本の指に入る大記録です。「たくさんいて、うれしいな」と思っていたのですが、調査をしていくうちに、だんだんその思いがしぼんできました。

なぜかという出会うマルハナバチのほとんどの動きが緩慢なのです。さっきも書きましたが、最初は気温のせいかと思っていたのですが、たぶん違います。ハチたちの毛並みが悪いのです。つまり、年寄りのマルハナバチなのです。年寄りだから、動きが鈍いのではないかと思われました。

もう一つは、花粉団子を付けていないハチの多さです。花粉団子を付けていたのは 113 頭のうち 3 頭だけでした。この時期、マルハナバチの巣の中ではたくさんの幼虫が、働きバチが届ける花粉団子を待っているはずですが、なのに、花粉団子を付けていないとは、どういうことでしょうか？ 幼虫の成長に何か問題があったのでしょうか？

考えているうちに、一つの仮説が思い浮かびました。今年は梅雨の雨が多く、しかも長引きました。それは、地面の下に巣を作るマルハナバチにとって、とても迷惑なことで、例年だとそんなことはないのですが、浸水被害(?)が生じてしまい、次世代の幼虫たちが育っていないのかわれられません。あるいは、長雨で、十分な餌を確保できず、子育てに支障があったのかわれられません。その結果、「新しく・若々しい」働きバチが少なく、「年寄りの毛並みの悪い」働きバチが多くなり、また、巣には幼虫がおらず、そのため花粉を集める必要がなくなってしまったのではないのでしょうか。

もし、9月の調査で、マルハナバチが減っていれば、この仮説が正しい可能性が大きくなります。9月の調査が楽しみです、怖くもあります。

### ◆初秋編 9月5日

芳賀さんのお孫さん 3 人を含めた常連 8 名と初参加の渋谷さんご家族(4名)の合計 12 名の参加がありました。コロナ禍にあること・午後から雨が予想されることなどから、午前中のラインセンサス調査のみ行うことにしました。

最初にオリエンテーションで、自己紹介・全体の流れの説明・紙芝居(角田さん)・マルハナバチの特徴などの説明(三枝さん・鈴木)・注意事項を行った後、ラインセンサス調査の開始です。

調査結果は以下の通りです。

調査時刻:10:30~11:30(1時間)

天候:晴れ 気温(10:30):27℃

- ・トラマルハナバチ…1頭 ハバヤマボクチ 1
  - ・オオマルハナバチ…2頭 ゴマナ 1 アキノキリンソウ 1
  - ・ミヤママルハナバチ…5頭 ヤマハギ 1 アキノキリンソウ 1  
ノハラアザミ 2 タムラソウ 1
- 合計 8 頭(花粉団子を付けていた個体は5頭)

マルハナバチの数が少なく残念でしたが、大きな花粉団子を付けたトラがハバヤマボクチに長時間滞在していたのでじっくり観察することができました。その他、花のレストランでハナカミキリやハナアブ・ヒラタアブ・小さな甲虫の仲間を見たり、チョウやトンボも多くそれな

記事: 鈴木 辰三



りに虫と植物の関係など楽しむことができたと思います。観察が終わってロッジ前のベンチで昼食を取りましたが、間もなく急な雷雨になり解散しました。

## 乙女高原案内人「夏のボランティアガイド」

2004年に始まった「乙女高原案内人 夏のボランティア案内自主活動」ですが、2009年まで6年間続きました。その後、「夏の自然観察会」「乙女高原を歩こう」などに形を変えてきましたが、2016年から再開。再開から今年で5年目となります。夏の土日を中心に、乙女高原案内人が交代でロッジ前に「待機」し、訪問者の希望に合わせて説明したり、案内したり、場合によってはパンフレットをお渡しするだけだったり…。今年は7月下旬から8月上旬の土日祝日の7日間を活動日とし、23日に案内人有志が集まり、担当日や留意点について話し合いました。

案内人の山本さんが、まるで日記のように記録(7/25~8/8)を紡いでくださいました。その努力があったので、皆さんと案内人の活動について、皆さんと共有することができます。

夏の案内人活動	
7月25日(土)	山本
7月26日(日)	山本・渡辺・角田
8月1日(土)	山本
8月2日(日)	山本・渡辺
8月8日(土)	山本・井上・鈴木
8月9日(日)	山本・三枝・芳賀・植原
8月10日(祝)	井上

### ●7月25日(土) シカ柵の扉のフックが…

記事: 山本 義人

今日雨が降っていましたが、乙女高原へ行ってきました。着いたのは10時少し前でした。ロッジの窓を2か所だけ明けてから、それほどひどい降りではなかったので草原を散策していました。

11時少し前にタクシーが5台上がってきたのでロッジに戻りました。毎年この時期に毎日新聞旅行が主催している乙女高原観察会のツアー団体でした。男性3名、女性11名、合計14名が、11時から12時まで約1時間の散策をしていきました。本来は焼山峠から乙女高原まで歩きの予定が、悪天候のためロッジ前までタクシーで来たようです。2時間半の歩きの計画が、1時間の散策で終わり、不満をもらしていたメンバーもありましたが、ほとんどの方はこんな天気でも花が見られてよかったと言っていました。

ツアー団体が帰るころには雨も上がってきて、時々パラパラ来ましたが薄日もさしたりしました。1時を少し過ぎたころに春日部ナンバーの車が1台到着しました。乙女高原は初めてという男性1名、女性2名のグループでした。小1時間ほど散策して帰られました。

実は午前中の団体が帰った後も、午後の小グループが帰った後も、扉のフックが外れたままでした。最後の人々がフックを戻すように注意する必要があると思いました。展望台にも行っているようなので、外れたままになっていないか見にいき、大丈夫だったことを確認してから帰りました。午後にはオオマルハナバチとトラマルハナバチが訪花しているのを確認しました。また、咲いている花の掲示板をアップデートしておきました。



### ●7月26日(日) 雨がよく降りますが…

前日の天気予報では、午前中は夜来の雨が残るも午後には雨も上がるということだったので、昼近くになったら乙女高原に行ってみようかと思っていたところ、雨が早めに上がったので、少し出遅れましたが、案内人活動に出かけてきました。駐車場に着いたときに角田さんご夫婦とお友達二人がちょうど着いたところでした。渡辺さんに連絡したから後から来るよと言って、4人で草原の中へと入って行きました。

しばらくして渡辺さんが来られ、二人で話しながら草原を眺めていたら、下の駐車場の方からツツジコースを歩いてきたご一行が草原コースへと現れました。ロッジの方を向いて、案内人がいるようなことを男性のリーダーが説明していましたが、そのほかのメンバーは全員女性のような様子でした。昼時になってブナ爺さんの所まで行って来たという角田さんたちが戻って来て、ご一行に出会ったよ、全員マスクして歩いていたよと教えてくれました。ベンチの所で昼食をとっているとご一行もやってきて、あずまの所で昼食をとるようでした。

草原にはやはり下の駐車場からツツジコースを通って草原コースへと歩いてきた数名のグループがいて、展望台の方へは行かずに草原コースから駐車場へと戻って行きました。

また、お一人で焼山峠から歩いてきたと言う年配の男性がシャクナゲを見たいようなことを言っていたが、大窪山はアズマシャクナゲなので終わっており、大弛峠まで行けばハクサンシャクナゲなのでまだ見られるでしょうという話をしましたが、車ではないので行けないようでした。

天気が怪しくなってきたので、ロッジ軒下へ移動して角田さんたちとおしゃべりしてアサギマダラの話になり、渡り蝶の習性の話から北アメリカの渡り蝶の話を見せてもらいました。雨も激しくなってきた本降りとなり止みそうもなかったため、あずまやのご一行はまだ雨宿り状態を続けていましたが、早めに活動を終了して帰ることにしました。

### ●8月1日(土) 草原だけでなく周りの林も含めて時期を変えてまた来たい

今日はマルハナバチ調査隊の日で、案内人スタッフもそちらに参加されたので、その間は私一人で対応していました。今日お会いしたりお見かけしたりした方々は、草原を散策された親子(母親と子供)やご家族(両親と子供と犬)、鉄板で焼きそばを作って山ご飯を楽しんでいたご夫婦、近くの倉沢山を探索してきたというご年配の男性、大窪山へ行ってきたと言う女性2人、下は暑いから涼みに来てみたという女性、高山から下りてきて立ち寄ったと思われる大きなバックパックを背負った若い男女、それに翌日2日に来られるというメール連絡をいただいた静岡からの団体の先行部隊5名といったところです。

大窪山へ行ってきたという女性はカラマツ林とコケが印象的だったとおっしゃってくれたので、そのカラマツ林で数年前(2016年)に「精霊の守り人」のロケがあったことを教えてやると、「綾瀬はるか来たの?」と聞くので「来たよ」というと感激されていました。フレモコウがたくさん咲いていた時に来たことがあったが、今度はアヤメの時期や冬にも来てみたいと言ってくれました。それと下は暑いから涼みに来てみたという女性は、新型コロナウイルスでリモートワークになり、実家に帰って仕事していて東京へ戻れずにいるとのことでした。



### ●8月2日(日) 団体の皆さんから一言メモをいただきました

今日は高槻先生が計画していた「花と昆虫のリンク調査」を天候の関係で実施できなくなっていたので、ファンクラブスタッフで行ってみることにになり、案内人スタッフもそちらに参加されたので、私一人で静岡からの団体14名の対応をする予定でしたが、渡辺さんが応援に参加してくれました。リーダーは前日も来られていて、当初の計画は大窪山ハイキングを計画していて下見もされて帰りましたが、マルハナバチ調査隊のことに興味を持たれたので、大窪山ハイキングはやめて乙女高原での滞在時間を長くすることにしてくれました。渡辺さんが案内人として一緒に乙女高原歩かれたので、帰りがけに一言メモを書いていってくれましたので一部紹介します。

- ・丁寧に説明して下さい、ありがとうございました。今まで適当に覚えていたので、細かいところの違うところを教えてください、同じ仲間なのに違うところに気づかされました。これからもう少し丁寧に見たいと思いました。
- ・遊歩道も敷わらがあり歩きやすく常日頃のファンクラブの方々のご苦労が身にしみました。要所要所に花の写真説明があり案内人がいなくてもとてもわかりやすく素晴らしいと思いました。
- ・思ったよりたくさんのお花があって驚きました。チョウやハチも説明を聞き一段と興味がわきました。
- ・アサギマダラやヒョウモンチョウ、トンボ、ハナバチなど普通の山行では見落とししてしまいそうな事柄も見られて良かったです。
- ・乙女高原の戦前からの生い立ちを聞き、この貴重な自然あふれる高原を残そうとする努力を知り、改めて敬意を表します。高原を歩き、林の中を歩き、木立の美しさ、風景の美しさに目を見張った。ダケカンバとシラカンバの林が素晴らしい。

### ●8月8日(土) 虫取り網を持った人がいました

今日は井上さんと鈴木さんと私の3人が参加しました。草原を散策する人たちもまばらで大半は草原駐車場を利用されていました。所沢のご夫婦は毎年来られているようですが、以前東京で植原さんの講演

を聞いてメルマガ会員になっていた経緯があり、以来乙女高原が好きになったようです。

虫取り網をもっている男性がいましたが、草原には入らないで、道路沿いで虫取りをしていました。

## ●8月10日(月) いろいろな方と話をして…

記事: 井上敬子

8月10日は3連休最終日、案内人活動も最終日でした。誰か案内人は来ているかと思いましたが、誰もいないので、一人でロッジを開けて案内の準備をしました。準備をしていたら、ヒメヤママユの終齢幼虫が地面にいて、案内するベンチの方に這って来ました。踏みつぶすといけないので、草むらに移動してやりました。

10時ころから3時近くまでロッジ前にいました。この日は4人の家族連れ、長野から初めて来たという年配のご夫婦、以前に案内人をしていたという男性、キャンプが目的というご夫婦、地元の男性、小樺山に登ってきたという女性などに、パンフレットを差し上げたり、草原のことをお話したり、花情報をお知らせしたりしました。パンフレットや話のなかで、より草原のことや花のことが楽しめたと言って下さる方もいて、やはり少人数でも案内をする価値はあったと思いました。

3時近くに片づけをしてロッジを閉めました。

3時過ぎに半場さんご夫婦が富士山でガイドをしているという男性と一緒にいらっしゃいました。それで草原を一緒に歩きました。その男性は「この花はどんな戦略でこんな形をしているのだろうか(たとえば、ツリガネニンジン萼があんなに細いのは何のため?)」などと目のつけどころが面白かったです。案内活動の中でも、いろいろな見方がお知らせできると、さらに興味を持ってもらえるかなと思いました。

# 花と昆虫のリンク調査

記事: 植原 彰

2013年、麻布大学・高槻研究室の学生・加古さんが「花と昆虫のリンク」の調査・研究を乙女高原で行いました。この場合のリンクというのは、花と昆虫の結びつきということです。5月から10月まで何度となく乙女高原を訪れ、どんな花にどんな昆虫が来ているかなどを根気強く調べ、卒業論文にまとめました。すごい労力だったと思います。

高槻先生の提案によって、今年、これと同様の調査を行い、2013年の結果と比較してみようということになりました。2013年からの7年間に、乙女高原では大きな環境変化がありました。2015年に草原をぐるっと囲むシカ柵ができたのです。状況はあきらかに変化しています。それを解き明かそうということです。ところが、この調査は「いい天気」の日でないとできません。いい天気でない、昆虫たちが活発に活動しないからです。最初設定した7月11日は天候不順で中止。12日も、18日も、19日も、東京オリンピックの開会式のはずだった4連休もだめでした。そうこうしているうちに東京でコロナ感染が拡大し、そもそも高槻先生が山梨に来られなくなってしまうました。

そこで、高槻先生なしで高槻先生から事前に送っていただいた調査マニュアルを見ながら、高槻先生抜きで、調査を行ってみることにしました。マルハナバチ調べ隊の翌日、8月2日です。この日は静岡からの団体を案内する予定日でしたが、そこは山本さんと渡辺さんをお願いし、三枝さん・芳賀さん・井上さん・鈴木さん・角田(晴)さん・植原の6名が2人ずつ3グループに分かれて調査しました。ちなみに、この日は角田(敏)さんが遊歩道等の草刈りをしてくれ遊歩道を歩きやすくしてくださいました。

高槻先生の送ってくださった遊歩道地図には、ポイントポイントに1から16の番号がついています。そして、1と2の間はA、2と3の間はBというように、各区分にアルファベットが割り振られていました。今日はAを三枝・鈴木グループが、Cを井上・芳賀グループが、Dを角田・植原グループが調査することにしました。



ハナアブとヨツバヒヨドリ



セセリチョウとヨツバヒヨドリ



ナミハナアブとクガイソウ

所定のスタート地点に行き、出発時刻を調査票に書き込みます。そして、遊歩道の右側 2m範囲内で花に  
来ている昆虫を探して1歩ずつ歩きます。このとき、歩数を数えておきます。花に来ている昆虫を見つけれ  
ば立ち止まり、発見時刻・歩数・花の種類・昆虫の種類を調査票に書き込みます。花は種名まで書きますが、  
昆虫ではそれはむずかしいため、わかる範囲で書きます。基本的には、1ハチ 2ハエ・アブ 3チョウ 4  
ガ 5甲虫(コガネムシなど) 6その他(カメムシ、アリなど)…の6群に分けられればよいことにします。  
ゴール地点に着いたら、今度は来た道に戻り、やはり右側(行きとは反対側を調査することになります)で  
花に来る昆虫を見つけながら歩いて、スタートまで戻ります。一つの花(またはひとかたまりの花)にたくさ  
んの昆虫が来ていることがあります、その場合「ハエAが3匹、ハエBが2匹」などと記録することに  
しました。

どの区画も調査するのに1時間前後かかりました。そして、たとえば、ウエハラが角田さんと行ったD区  
画では108もの「花を訪れる昆虫」が記録されました。

調査方法が妥当かどうか高槻先生に確かめたかったし、天気も怪しくなってきましたし、なにより、調査  
票がなくなってしまいそうだったので(こんなに多くの「リンク」が記録されるとは…)、午後の調査は行わ  
ず、午前で打ち切ることにしました。

1週間後の8月9日、乙女高原の案内活動を行いながら、調査の続きをしました。芳賀さんにも手伝って  
いただきながら、さらに7区画の調査を行いました。これで10区画の調査が終わり、残る区画は8つとな  
りました。調査結果を高槻先生がどのようにまとめてくださるか楽しみです。

## 高槻先生と植生調査

記事: 植原 彰

9月19日に高槻先生を団長とする植生調査を行いました。井上さん、岡崎さん、甘利山倶楽部から小林さ  
ん3人(同姓)、ウエハラと、高槻先生を含め参加者は7人でした。

この調査はシカ柵を設置する直前の2015年9月に始まり、以降毎年9月に行っています。草原内に10箇  
所のポイントを設定し、ポイントを中心に2m×2mの範囲で植物を調べています。シカ柵の設置によって本  
当に植生が回復しているのかモニタリングを行っているわけです。

ポイントには杭とポールが立っていますから、それを目印に見つけます。ポイントを隅にして、折り尺を使  
って1m四方の方形枠を作ります。折り尺のめもりを見ながら、まず10cm×10cmの枠の中にどんな植物が出現  
するかを見ます。ヘビノネゴザとミツバツチグリがありました。記録します。そしたら、枠を広げ、10cm×25cmの枠を想定  
し、この中にどんな植物が出現するかを見ます。ホソバヒカゲ  
スゲとオオヤマフスマがありました。この繰り返しで、  
25cm×25cm、25cm×50cm、50cm×50cm、50cm×1m、1m×1m  
と枠を広げ、そのたびに出現する植物を記録します。1m×1m  
を終えたら、それぞれの植物の被度と高さを記録します。た  
とえば、ヘビノネゴザはとても多くて、累積すれば1m×1mの  
半分の面積を占めているように見えたので被度50%、高さ  
30(cm)と記録しました。さらに、方形枠を1m×2m、2m×2mま  
で広げ、出てきた植物を記録しました。これで1ポイントの調  
査は終わり、次のポイントに向かいます。午前5ポイント、午後も5ポイントの調査を行い、今日のノルマを終  
えました。



じつは、帰宅してからポイント6の位置が違っていることが分かり、仕方がないので、21日に一人で再調  
査を行いました。ポイントでの調査の様子が詳しく書いてあるのは、じつは、その時のものです。

簡単そうに見えますが、小さな植物・茎と葉しかない株を見て、植物名を当てるのは、非常に難しいです。  
わからないときは、ビニール袋にその株を入れて、似たような植物を探し、比べて観ます。この時、見た目  
ばかりでなく、においや触った感じが、とても重要になることがわかりました。たとえば、ヒヨドリバナの葉  
の裏側を触ると、葉脈がかなり太いです。!ンドウの茎は針金くらい固いです。似た植物と区別するとき、  
この触った感じが決め手になりました。いつも目にはばかり頼って観察している自分に気づきました。

どうしてもわからないものについては、高槻先生に郵送して確かめていただくことにしました。(追記:21  
日の調査も十分でなく、26日に再々調査を行いました。雨に降られながら…)

# 乙女高原ファンクラブ 下期の活動予定

## ◆第21回 草刈りボランティア

毎年11月23日(祝)は恒例の草刈りボランティア！乙女高原の自然を今のまま未来に向けて残しておくためには欠かせない大切なイベントです。例年であればチラシを作って大々的に参加を呼び掛けるところですが、今年は少し事情が違います。コロナの感染拡大が収束しない中、大勢の人が集まるイベントは、開催の有無について慎重に検討しなければならないからです。とはいえ、高原を守り続けるためには草刈りを行うことは不可欠であり、県や市ともいろいろ議論を重ねた結果、規模は縮小したうえで今年も草刈りボランティアを実施することとしました。

～現時点で検討している内容は以下の通りです～

日時: 11月23日(祝・月)9時30～12:00

内容: ① 半日開催 ② チラシは作成しない ③ 送迎バスなし ④ 豚汁なし ⑤ キッズ・ボランティアなし  
⑥ 事前作業を拡大する など

※詳しくは後日ホームページに掲載してご案内します。

## ◆乙女高原自然観察交流会(活動予定)

・集合 「原則」午前9時 道の駅 はなかげの郷牧丘(国道140号沿い)  
乗り合わせて乙女高原に向かいます。

・持ち物 弁当、水筒、あとは観察用具。標高が高いので防寒着も用意してください。

・参加費 無料。

【乙女高原観察交流会 覚書】science2015.12

- 乙女高原ファンクラブとしての行事でなく、参加者各自の自主的活動として行うもので、活動に伴う旅費や飲食、傷害保険などすべて自己責任となります。
- 途中からの参加や、午前中だけの参加など自由ですが、解散時間の目安は現地3時、道の駅3時半とします。
- 雨天の場合などは現地には行かず、道の駅での交流会にしたり、早めに散会するなど、参加者各自の意思で決めてもらいます。
- 参加者は乙女高原ファンクラブのメルマガメンバーとしますが、お知り合いを同行されることは自由です。
- 乙女高原観察を通じた交流目的のため、参加者間で情報を共有できるように、乙女高原ファンクラブ世話人会の了承のもと、メルマガなどを利用させていただきます。

<今後の日程>

⑦10月03日(土)

⑧11月07日(土)

⑨12月05日(土)

⑩01月09日(土)

⑪02月06日(土)

⑫03月06日(土)

※09:00～ 牧丘の道の駅集合

## ◆第20回 乙女高原フォーラム

スペシャルゲストとして 鷲谷いづみさん を迎えての講演を予定しています。

記念すべき20回目のフォーラムをコロナ禍でどのように行うか検討中です。詳細が決まりましたら、別途ご案内いたします。

<予定>

日程: 2021年1月31日(日) 13:30～15:30

スペシャルゲスト: 鷲谷 いづみ さん

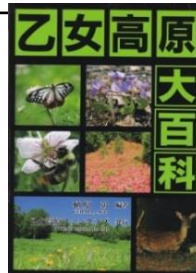
東京生まれ。東京大学理学部生物学科卒業、1978年同大学理学系研究科終了、理学博士。筑波大学講師、助教授を経て、東京大学大学院農学生命科学研究科教授を務める。2015年定年退任、名誉教授、中央大学理工学部教授。みどりの学術賞、日本生態学会功労賞などを授賞。

●コロナ禍で県や市との協議の場である乙女高原連絡会議や、ファンクラブの世話人会も思うように開催できない状況が続きました。イベントの開催や観察会・調査の実施方法など検討課題も多く、当分は試行錯誤の状態が続きそうです。

## 乙女高原ファンクラブの刊行物

### 乙女高原とファンクラブ11年間の集大成『乙女高原大百科』

(A5判 602頁) 草刈り開始後から配信している乙女高原メールマガジン 11年間 268号の中身を編集したら厚さ3cmの本になってしまいました。一部カラー。希望者には実費でお分けします。1冊2,000円、送料は1・2冊なら370円。欲しい方は郵便振込で1冊なら2,370円送金してください。



### 乙女高原インタープリテーションのテキスト『乙女高原案内人 誕生と成長の記録』

(A4判 186頁) 乙女高原案内人養成講座の中身と、その後の案内人の活動の様子を一冊の本にしました。希望者には実費でお分けします。→[在庫切れ](#)

## 乙女高原フィールドガイド シリーズ

欲しい方は事務局までご連絡ください。



### フィールドガイドⅢ スミレの観察のおともに『乙女高原のスマイルウォッチング』

(A3判両面カラー) 乙女高原では、なんと18種類ものスマレを観察できます。このフィールドガイドでは乙女で見られるスマレたちのプロフィールを紹介するとともに、スマレ観察のポイントをていねいに解説しました。

### フィールドガイドⅡ マルハナバチの観察と調査のおともに『マルハナバチ ウォッチング改訂新版』

(A3判両面カラー) マルハナバチの生態、ファンクラブで行っている調査、乙女高原で見られる6種(+2種)のマルハナバチの見分け方をコンパクトにまとめました。2015年に改訂版を出しました。

### フィールドガイドⅠ 春から夏にかけて咲く草花のガイド『乙女高原のお花たち』

(A3判両面カラー) フィールドガイド第1号。春から秋に咲く47種類の草花を写真つきでコンパクトに紹介。草丈表示と草花の一言コメントが「分かりやすい」と評判です。2013年6月に第3版発行。

## ■乙女高原ファンクラブの普通会员になりませんか？

『数は力』という側面もあります。ファンクラブの会員が多くなれば、それだけ乙女高原の保全に対するファンクラブの発言力が増します。まわりの方をファンクラブに『巻き込む』ことも乙女高原を守る活動の一つです。まわりの方にファンクラブをお勧めください。

### 乙女高原ファンクラブに入会するには…

- ・「入会します 氏名・郵便番号・住所・電話番号」というファックス、メール、手紙等を事務局までお届けいただければ、いつでも、だれでも会員になれます。
- ・入会金も年会費もありません。乙女高原を守る力が1人分、大きくなります。
- ・普通会员には年4回、サポーター会員には年1回、ニュースレターが届きます。
- ・普通会员には総会出席の義務がありますが(委任状可)、サポーター会員にはありません。

今号は普通会员のみにお送りしています。

## ■乙女高原ファンクラブへの連絡先■

【事務局】 植原 彰(方) 〒404-0013 山梨県山梨市牧丘町窪平 1110-3

TEL/FAX 0553-35-3682 電子メール otomefc@fruits.jp

※会報への原稿や写真等の投稿もこちらにお送りください。

WEB <http://fruits.jp/~otomefc/>

●郵便振込● (番号) 00220-8-71093 (加入者名) 乙女高原ファンクラブ